工事検査ワンポイントアドバイス

技能士の活用について

工事検査通信　No.98

発行：　R7年9月29日

出納局　工事検査課



今回のテーマは「技能士の活用」についてです。
建築関係工事の検査をしていると、特記仕様書で技能士の欄がありますが、どのような理由があるのでしょうか？

様々な工種がある建築関係工事では、技能士の活用で、高い技能を持つ人が現場で作業をしたり、指揮を執ることで、工事の品質が向上し、自ずと技術者の技術の向上も図られます。
また、有資格者を活用することで、有資格者の確保につながることも考えられます。



※技能士とは『職業能力開発促進法に基づいて実施される国家検定である技能検定試験の合格者に付与される名称です。（福島県技能士会連合会HP）』



なるほど、県有施設の質の向上と各技術者の技術の向上を図るために、技能士を活用するのですね。
ほかに技能士を活用するメリットはありますか？

１級技能士は主任技術者にもなりうる資格ですし、２級技能士も実務経験を加えることで、主任技術者になれる資格ですので、活用しやすいと思います。
ただし、二級技能士が主任技術者の場合は、実務経験の確認を忘れずにしてください。





それでは、建築関係工事の工事検査では、技能士の活用についてどのような内容を確認するのですか？



技能士の配置計画と現場の来場の状況について、確認します。配置計画について施工計画書や施工体制台帳で、現場の来場については、日報などにより確認してください。



ところで、特記仕様書で技能士の活用を適用している中で、確保できないとなった場合は、設計図書のとおりに工事が行われませんが、どうすればよいですか？



監督員と受注者で当該作業の技能士の活用について協議をしてください。設計図書の変更になるので、協議が必要です。
（ただし、入札時の総合評価の評価基準になっている場合は入札事務担当者に確認が必要になります。）
作業内容を確認して、早めに協議しておくと良いですね。
技能士の活用は、工事の品質の確保、安全の確保、技術者の育成と技術水準の向上といった役割があるので、積極的に取り組んでください。

＊＊

●本日のポイント

- 技能士の活用は、工事の質の向上だけでなく、技術者の技術の向上の観点もあること。
- 技能士を主任技術者とする場合、２級技能士の場合は資格取得後の実務経験が必要であること。
- 設計図書で適用されている技能士が確保できない場合は、設計図書の変更になるので、協議を行うこと。

【登場人物の設定】

〇福島県 出納局 工事検査課



：梁本(ﾊﾘﾓﾄ)検査員



：渋井(ｼﾌﾞｲ)検査員